



田井 真一 議員
(改革未来・自民の風)

市民や医療従事者が誇れる加西病院をつくろう 市民が安全で安心して暮らせるまちをつくろう



問 新病院の基本構想等策定に係る諮問委員会の在り方と病院を核としたまちづくり構想について。

答 前回のメンバーに市民代表を加えて諮問委員会を設置します。まちづくり構想については、「メディカルタウン」を整備し、敷地内に開業医や商業施設などを誘致したいと考えており、あわせて、諮問委員会に諮ります。

問 令和6年4月から医師の時間外勤務の上限規制が適用されるが、医師の働き方改革に向けた取組と時間外勤務の状況は。

答 医師業務の一部を認定看護師など他の医療職にタスクシフト・タスクシェアしています。令和4年度・5年度の時間外勤務の状況は、来年度適用される上限内となっており、上級医が勤務内容を確認しています。

問 防犯カメラをより有効に活用するために、SDカード方式からセンター管理方式に切り替えてはどうか。

答 長期的・総合的な効率化、耐用年数なども考慮して、センター管理方式への切替えを検討します。

問 現在、片道4キロメートル（最長6.5キロメートル）以上を歩いて通学している児童がいる。子供の安全を確保する観点からもスクールバスの試験運行を行

い、小中学校再編後の本格実施に向けて問題点の抽出と課題解決を図ってはどうか。

答 スクールバスは、小中学校再編の重要な検討課題です。運行ルート、運行形態、利用者、コストなど様々な調査分析が必要となるため、本格実施に向けて試験運行を検討します。

問 田原駅西側の踏切手前で市道の歩道が途切れている。小中学校の通学路となっており、交通量も多く大変危険な状態である。速やかな改良が必要と思われるが。

答 当該踏切については、関係機関と協議を進め、令和7年度を目標に改良したいと考えています。それまでの間は、白線の引き直しやグリーンベルトの設置などにより安全確保に努めます。



中右 憲利 議員
(令和新風加西)

学校再編及び小中学校の教育について



数や小学校就学前の人数の増加等も考慮する必要があるので。

答 (教育長) 例年、小学校就学前に1～2割の増加が見込まれます。コロナ後の動向についても、地域協議会が発足して協議をする中で、ある程度見極めることができると思います。見込みと大きく異なる変化があれば、協議会で見直すことは可能と考えています。

問 加西市で行われているSTEAM教育について。

答 (教育長) 加西STEAMは、挑戦し、協働し、創造するという3C人材の育成を目指す教科横断型の探求的な取り組みです。教科学習とリンクさせて思考力や人間力を伸ばすことを目的としています。ただし、基礎学力を最優先に進めたいと考えます。

問 教育に関する教育長の考えについて。

答 (教育長) まずは子供たちが生きる力を身につける、これに尽きます。学校や園が温かい言葉で満たされ、知・徳・体の基盤を育てることを目指します。また、全国学力状況調査でも全教科で全国平均を上回る結果の実現と同時に、3C人材の育成、人間力をつけることも両輪で進めていきます。特別な支援が必要な子供たちには手厚い支援を可能にするスクールアシスタントの確保、不登校対策についても、仮想空間を利用した居場所づくりなど新たなツールを使った展開をしたいと考えています。また、子供たちの興味関心に応じて、グローバルな学び、国際的な学び、高度な科学技術等に触れる、そういう拠点・機会を提供したいと考えます。

問 学校再編の方向性確定の方法について。

答 (教育長) アンケートは、ゼロ歳児から中学3年生までの保護者に加え、中高生の意見も聞く予定です。11月のタウンミーティングで地域の方と協議しますが、やはり保護者、子供たちの意見を重視したいと考えます。統合を考える場合は、大きな枠組みで関係の学校を含む地域協議会の設置を想定してします。

問 コロナによる出産控え等があり、今後2～3年の出生